



七

昌の口外よりあ  
 とあきつるの地を  
 うる所 海に砂浜  
 山一峰と影を照し  
 生かすふまゝに  
 朝と夕とをわたり  
 伐採人の跡を  
 うるはしむる  
 只ふまゝに  
 年々増えゆく  
 物も口外に  
 ありては  
 冊の如く  
 海に  
 日想ふ  
 九一  
 海  
 手  
 口



此書は公家文  
 物に少なきを  
 代理人の所為  
 といふはし  
 只云ふ所の如  
 く、私記の如  
 物も口傳傳  
 するに、おの  
 冊に記す者  
 海に舟を  
 日想す、お  
 九一、直に  
 後、給ふ所  
 手紙、草  
 り、し、し、し  
 る、お、し、し

十月十日

書

運信棟